

## ソウシチョウ関連の説明

江口和洋（九州大学）・石田健（東京大学）

### 1. 広く、密度の高い分布

国内でソウシチョウの繁殖が確認されている主な地域（江口・天野未発表アンケートデータその他による）

九州（1000mを越えるほとんどの山系）：福岡県（英彦山、背振山、油山、馬見山）、佐賀県（九千部山、背振山）、長崎県（栗木峠（佐世保市）、多良岳、雲仙岳）、大分県（岳滅鬼山、釈迦岳、御前岳、尾ノ岳、酒吞童子岳、久住山系、祖母山系）、熊本県（菊池溪谷、阿蘇南外輪山（矢部町）、国見岳、雁俣山、五家荘、五木、白髪岳、市房山）、宮崎県（祖母・大崩山山系、諸塚山、行藤山、椎葉、米良荘、霧島山系）、鹿児島県（霧島山系、志布志、大口）

四国：高知県（宿毛市、さおりが原（物部村））

本州；広島県（山県郡十防山）、鳥取県（気高郡）、兵庫県（六甲山）、大阪府（金剛生駒山系）、奈良県（吉野郡和左又山、大普賢岳、大台ヶ原、高見山）、和歌山県（高野山、護摩壇山、生石高原）、長野県（佐久盆地）、山梨県・静岡県（富士山）、神奈川県（丹沢山系）、埼玉県（秩父山地）、茨城県（筑波山）、



図1. ソウシチョウの繁殖が確認されている都府県

## 2. 生息環境と同所性鳥類

下層植生（主にスズタケなどのササ類）の発達した落葉広葉樹林地帯。多くの温帯林広葉樹天然林地帯で著しく優占する種となっている。例：推定1600個体（六甲山；大城（1997））

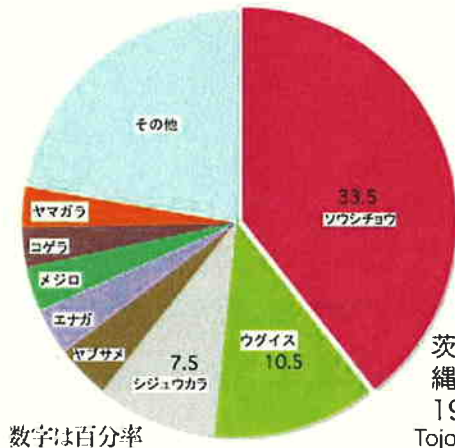


図2. 筑波山なわばり数カウントデータ

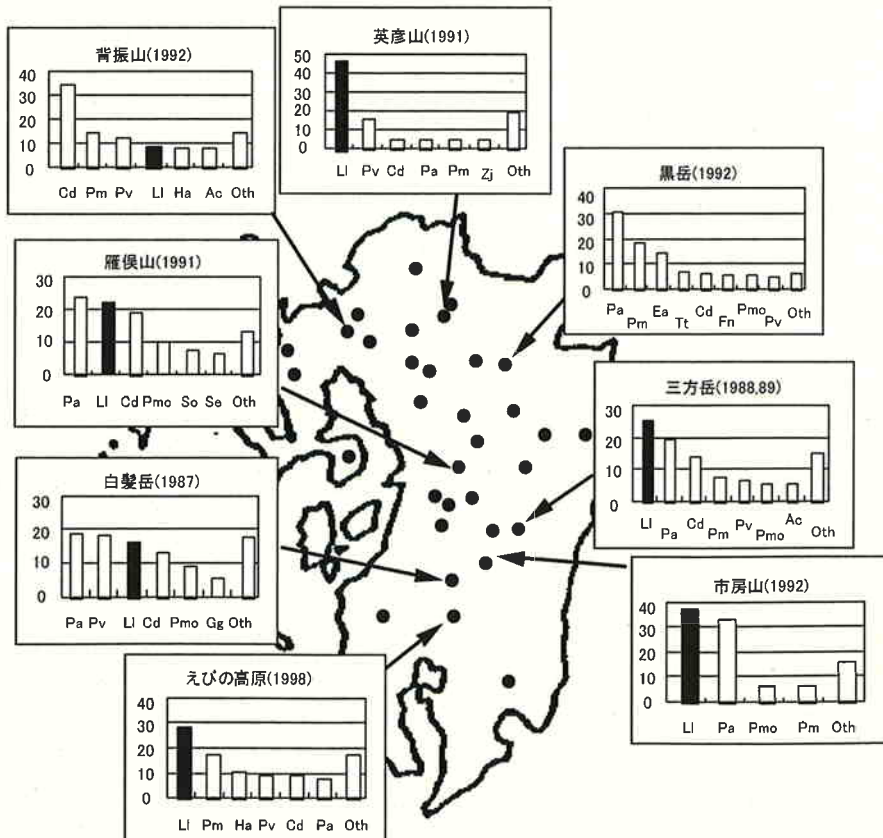
3.5~4.0 つがい/ha

茨城県筑波山  
縄張数  
1995年  
Tojo&Nakamura 2004

数字は百分率

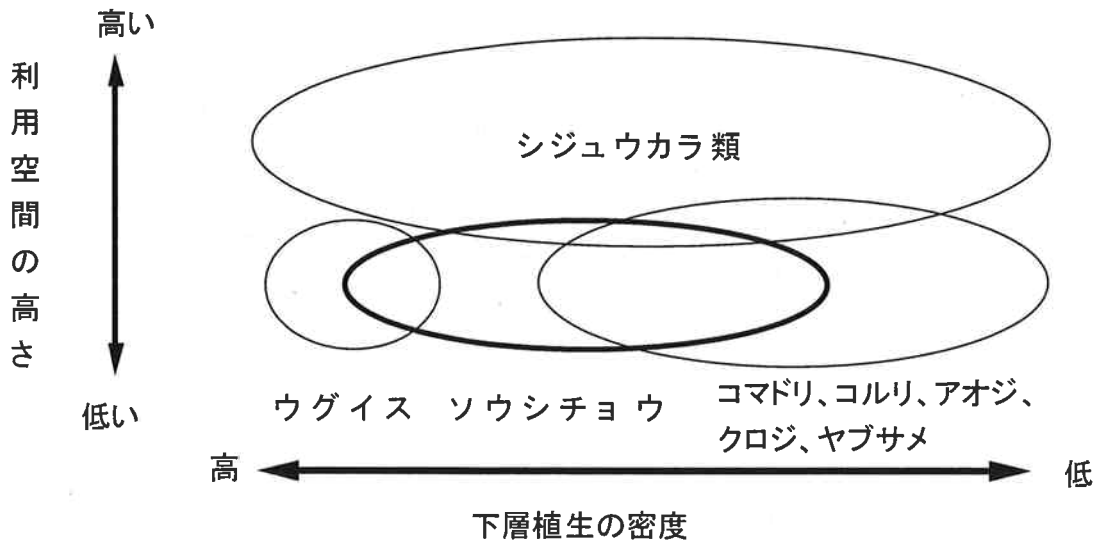
図3 ソウシチョウと在来主要種の相対出現頻度(%)

黒丸はソウシチョウの生息が確認されている地域。グラフ中、黒棒がソウシチョウ。地名の横の数値は調査年度。出典は省略。



### 3. ソウシチョウと在来鳥類のニッチ

図4. ソウシチョウと在来鳥類の空間利用



九州ではウグイス、ヤブサメ

本州では、ウグイス、ヤブサメ、コマドリ、コルリ、アオジ、クロジ、(クロツグミ、ルリビタキ) などと生息空間の重複が大きく、競合の可能性はある。

### 4. ソウシチョウの侵入による影響

☆ハワイ諸島 (Mountainspring & Scott 1985) : ソウシチョウ、ガビチョウ、メジロなどによりハワイミツスイ類などが顕著に減少している。餌資源をめぐる競争、病気の蔓延。

表. ハワイの外来種の在来種への影響 (Mountainspring & Scott (1985) より)

☆外来種と在来種の関係 (1次=食性の重複が大きい、2次=食性の重複が小さい)

	ガビチョウ	ソウシチョウ	メジロ
ハワイツグミ	1次	1次	1次
ハワイヒタキ	1次	1次	2次
ハワイミツスイ	1次	1次	2次
コハワイミツスイ	1次	異所的	異所的
カウアイハワイミツスイ	2次	異所的	異所的
マウイハワイミツスイ	1次	1次	異所的
コバシハワイミツスイ	2次	異所的	異所的
アカハワイミツスイ	2次	2次	2次
カンムリハワイミツスイ	2次	2次	異所的
ベニハワイミツスイ	2次	2次	2次

☆外来種の増加に対する在来種の反応

全島合計

1次競争者		2次競争者	
減少	増加	減少	増加
22例	25例	10例	30例

☆国内のソウシチョウ：資料少なく、傾向は不明瞭；潜在競合種の多い本州のデータがない。

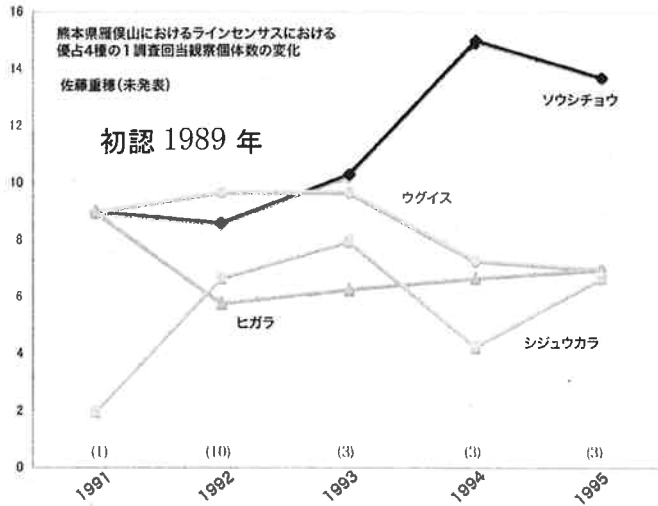


図5. ソウシチョウと主要鳥種の個体数変化  
ソウシチョウの増加にともなうウグイスの個体数減少（雁俣山；佐藤未発表）

★直接的な競争を示す証拠はない：筑波山 Tojo & Nakamura (2004)、えびの高原 Amano & Eguchi (2002a, 2002b)

温帯林地域の鳥類は餌資源が特殊化した例は稀であり、群集内で特定の種同士の間で1対1の関係生じることはない。ソウシチョウと在来種との顕著な競争関係が見いだせないのは、このためである。

しかし、ソウシチョウは各地で高密度になっている（図2，3参照）。

100ヘクタール当たり350～400つがい（Tojo & Nakamura 2004）

森林性鳥類では通常ありえないほどの高密度

☆異常な高密度による悪影響

- 1) 雑食性鳥類による生物相の攪乱→南西諸島のインドクジャク（田中・髙原 2003）
- 2) 競争による特定種の衰退→ハワイ諸島のチメドリ類、メジロ；モーリシャス島やタヒチ諸島のコウラウン、インドハッカなど
- 3) 捕食者相の個体数や捕食行動の変化にともなう特定種の衰退ないし群集全体の構造変化→apparent competition (Martin & Martin 2001)：鳥類で実証例あり